

現在のゲノム解析の運用方針

○府では次の方法でゲノム解析を実施し、変異株をモニタリングしている。

- ①一部の機関で継続しているL452Rスクリーニングを実施した検体について、スクリーニングの結果に関わらず、ウイルス量の多い検体を対象にゲノム解析を実施。

【L452Rスクリーニングを継続している理由】

- ・現在、全国的にデルタ株へ置き換わり、L452Rスクリーニングを実施してもほとんどが陽性となる。
- ・一方で、デルタ株の発生が減少してきた時が、次の新たな変異株が拡大する契機となる可能性がある。

➡ ゲノム解析より結果判明が早いスクリーニングを継続することで、デルタ株の状況変化をモニタリング出来る。

- ②ゲノム解析が可能な一部の医療機関で、新型コロナ陽性かつウイルス量が多い検体を対象に、ゲノム解析を実施。

ゲノム解析機関と実施数累計

大学、大安研、一部の医療機関で全長ゲノム解析を実施 ➡ **変異株の系統を把握することで、懸念すべき変異株等の探知が可能**

【ゲノム解析の実施数累計（6/1～9/26）】

ゲノム解析数 合計	(ゲノム解析数の内訳)						実施率
	府が整備した 体制	(府の内訳)				感染研や感染研が 委託するゲノム解析機関	
		大安研	医療機関 (2施設)	大阪大学	京都大学		
6,720 件	3,501 件	189 件	360 件	2,194 件	758 件	3,219 件	6.8 %

ゲノム解析数：検査実施機関から結果報告があった件数の累計

【参考】ゲノム解析の検出状況

○期間中に解析報告のあった変異株について、pango lineage（新型コロナウイルスの国際的な系統分類命名法）別に集計

直近1週間の検出状況【9/20(月)~9/26(日)】

【検出された変異株】

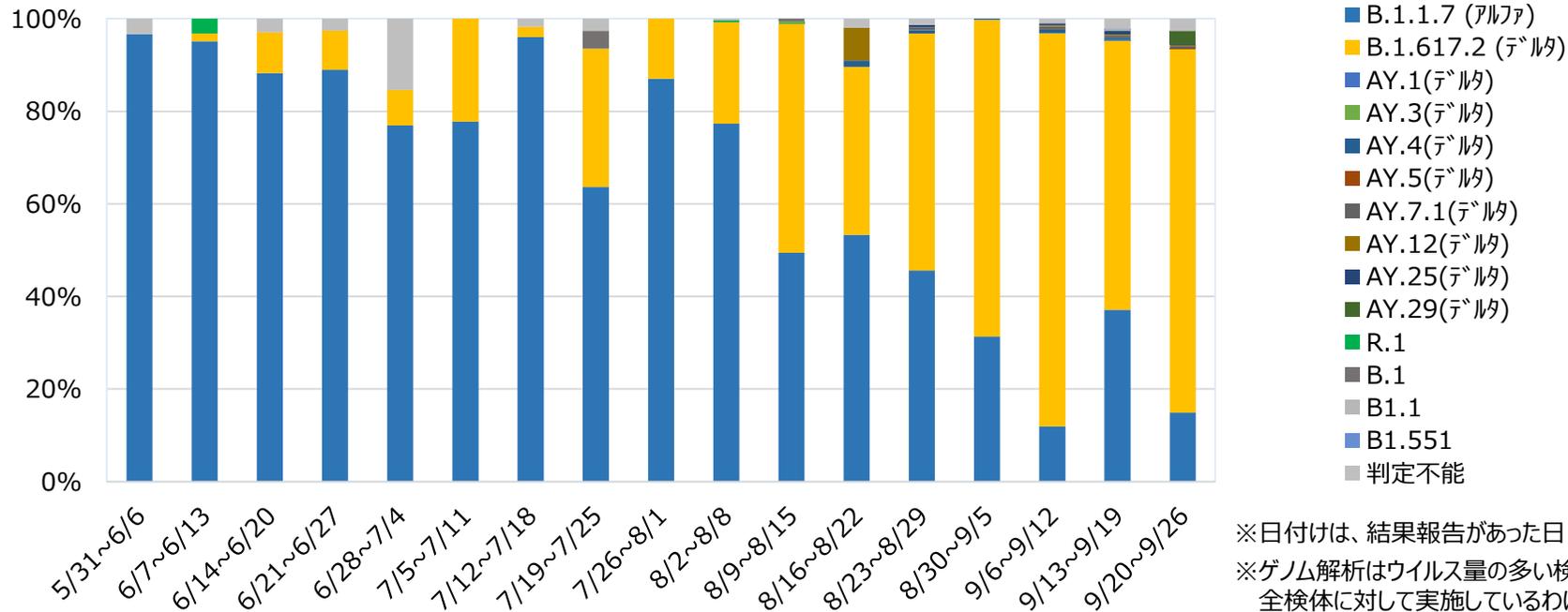
変異株 pango lineage	検出件数	検出割合
累計	1,608 件	-
B.1.1.7 (アルファ)	239 件	14.9 %
B.1.617.2、AY.4、AY.5、AY.7.1 AY.12、AY.25、AY.29 (デルタ)	1,326 件	82.4 %
判定不能	43 件	2.7 %

【検出された変異株について】

- 亜系統を含めデルタ株が最も多く検出され、次いでアルファ株の検出数が多かった。
- 上記以外のVOC（懸念すべき変異株）やVOI（注目すべき変異株）は検出されなかった。

※ゲノム解析は検査に時間を要するため、変異株スクリーニングの陽性率とはタイムラグがある。

現在までの検出状況【5/31(月)~9/26(日)】



※日付けは、結果報告があった日

※ゲノム解析はウイルス量の多い検体を対象にしているため、全検体に対して実施しているわけではない。